

島津製作所：知財業務の「セカンドステージ」へ

—— 生成AIが拓く事業貢献への転換



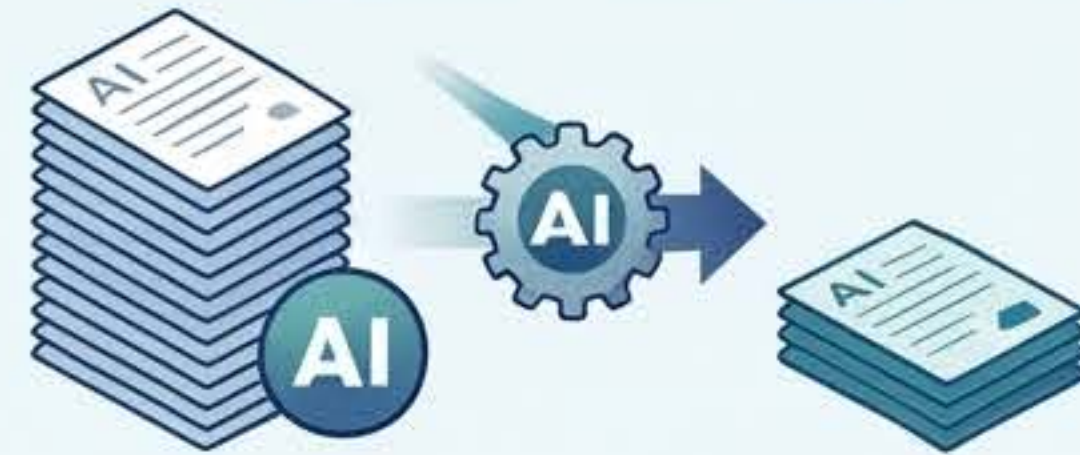
ファーストステージ： 省力化とコスト削減の成果

年間約8,000万円の
外部コストを削減



2025年度までに知財関連業務の内製化と自動化により、大幅なコスト削減を実現。

FTO調査の手作業を
約90%削減



年間約10万件に及ぶ他社特許資料のスクリーニング負担を、AI活用で劇的に軽減。



知的作業の
「支援・代替」による高速化

先行文献調査や発明届出の工数を削減し、人が担ってきた定型業務をAIが代替。

目的

省力化・高速化・コスト削減

知財部の姿勢

届出を受けて処理する「待ち」

成果指標

工数・時間・外部費用



セカンドステージ： 事業競争力を生む「攻めの知財」

「発明者起点」から
「事業計画起点」へ



発明屋を待つのではなく、事業計画からAIが発明候補を自律的に提案するプロセスへ。

作業員から「判断者・
対話者」への役割転換



文献誤解などの作業はAIへ移し、人間は事業価値の判断や戦略的対話に集中。

「IP ROIC」による
事業貢献の可視化

知財貢献利益を測定し、効率化で得た資金を戦略的権利化へ再投入する循環を構築。



目的

企業価値創造・事業競争力向上

知財部の姿勢

事業に必要な知財を設計する「攻め」

成果指標

事業貢献利益・IP ROIC

単なるAI活用から、事業戦略に直結する「価値創造」のフェーズへ。